

1 2

知教連
東海市

○上野中	富田大樹	緑陽小	市川稀瑛
名和小	坂本悠太郎	平洲小	佐藤喬哉
渡内小	黒島優	明倫小	都筑健吾
富木島小	近藤祐真	船島小	藤原実辰朗
大田小	薬師寺勇斗	横須賀小	石田祥平
加木屋小	加藤隆寛	三ツ池小	羽田野圭那
加木屋南小	河邊裕美	名和中	阪本景子
平洲中	武井建弥	平洲中	鈴木絢人
富木島中	日高德正	横須賀中	早川聡
加木屋中	平下秀		

分科会番号 1 3

分科会名 能力・発達・学習と評価

誰一人取り残されない授業デザイン

～魅力的な課題設定と協働的な学習を通して～

1 主題設定の理由

東海市では、令和4年度より研究主題を「自律して学びを進める生徒の育成」とした。令和4年度は、児童・生徒が「個別最適な学び」の中で課題に対する考えをもち、それを共有することで多様な考えに触れて、また、自らの考えを再考することで「自律して学びを進める児童・生徒の育成」を目指した。令和5年度は、全ての児童・生徒が一定以上の学習進度や到達点に達することができれば、話し合い活動がより活発になり、自らの考えを再考できるようになると考え、より「自律して学びを進める児童・生徒の育成」を目指した。多くの成果があった一方、どの教科でも、児童・生徒によって積み重ねに差があり、一定以上の学習進度や到達点に届かせることに難しさを感じるという課題が挙がった。

そこで令和6年度の研究では、2015年に出された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」でも重要視された「誰一人取り残さない」という点に着目し、学力差がある中でも、「誰一人取り残されない授業」を構築し、実践することで学びを深めていく必要があると考え、本主題を設定した。「誰一人取り残されない授業」を構築するためには、第一に、児童・生徒が学びたい、やりたいと思う課題設定を行い、主体的に学びに向かうように支援することが必要であると考え。そして、課題解決を進める中で、多くの児童・生徒が悩んだり、苦手意識をもったりすると考えられるため、協働的に学習を進める場を設定し、学習における躓きを乗り越え、課題解決できるよう支援していく必要があると考えた。以上の2点に力を入れ、「誰一人取り残されない授業」をデザインし、主体的に学びに向かい、協働的に学習し、学びを深めようとする児童・生徒の育成を目指していく。

2 研究の構想

(1) 目指す子ども像

- ・課題に興味をもち、主体的に学びに向かう児童・生徒。
- ・課題に対する躓きや、わからなさを他者と協力することで解決したり、新しい発見をしたりすることのできる児童・生徒の育成。

(2) 研究の仮説

仮説1 魅力のある課題を設定し、児童・生徒に投げかけることで学習内容に興味をもち、主体的に学びに取り組もうとするだろう。

仮説2 授業の中で、わからなさを共有したり、意見を交換したりする場を設定することで、全ての児童・生徒が学びを深めることができるであろう。

(3) 研究の手だて

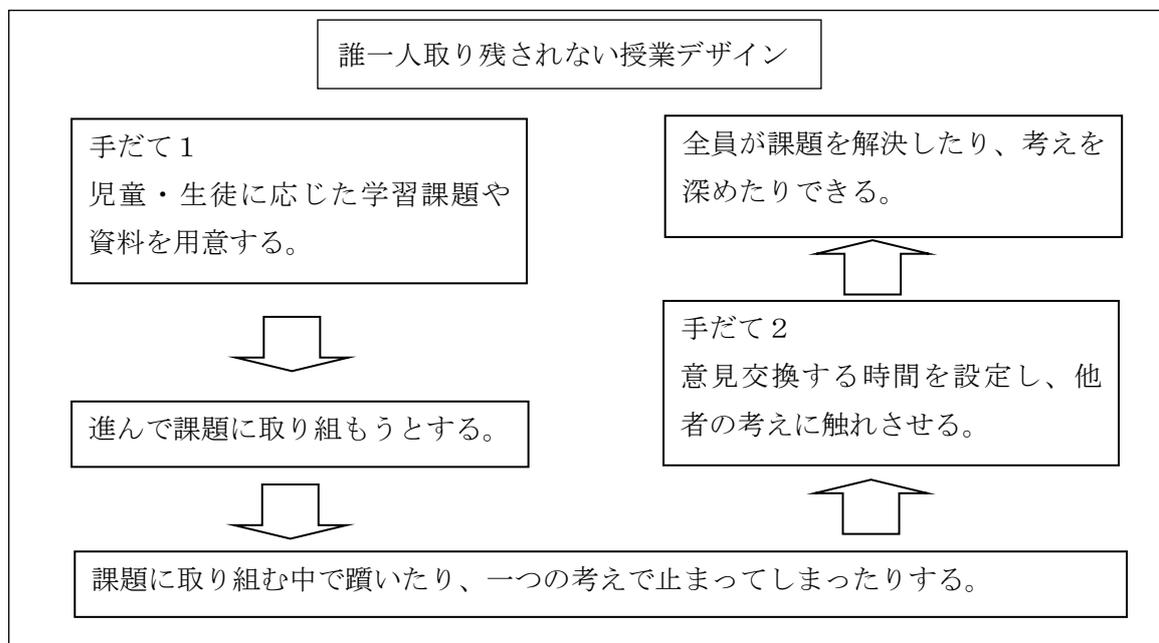
手だて1 (仮説1に対する手だて)

児童・生徒の学習進捗や実態に応じて、資料・課題の提示方法を工夫したり、課題の難易度を設定したりする。

手だて2 (仮説2に対する手だて)

学習過程の中で、わからなさを共有する時間や意見交換をする時間を設けたり、他者の考えに触れる方法を提示したりする。

(4) 研究構想図



3 研究の実践

(1) 小学校における実践

学年：6年生

教科：算数科

単元：場合を順序よく整理して（樹形図）

ア 具体的な手だて

・手だて1について

「学級担任の3人がリレーを行おうとしている。3人でリレーの順番を決めているが、どのような順番の組み合わせがあるか考えよう」という身近な人物を題材にした課題を導入部で提示することで興味をもって学習に取り組めると考える。また、導入課題を説明した上で、類似した発展課題を出すことで、さらに主体的に課題解決しようとする児童が増えると考え。

・手だて2について

導入課題、発展課題どちらにおいても、個人で考え、グループで意見を共有するという流れで行うことで、個人では課題を解決できない児童も課題解決方法を理解したり、新たな考えを発見したりできると考える。

イ 研究授業の概要

① 本時の学習目標

・並べ方が何通りあるかを、順序よく整理して求めることができる。

② 主な児童の活動

a 「6年生の担任3人がリレーを行おうとしている。3人でリレーの順番を決めているが、どのような順番の組み合わせがあるか考えよう」という課題に個人で取り組んだ後、グループで意見の共有を行う。

b 全体で課題解決の方法を共有する。（今回は様々な方法がある中で樹形図を利用する。）

c 発展課題として、人数が4人になった時の順番の組み合わせを考える。

③ 児童の様子

活動aでは、学年の先生を題材にした課題が提示され、児童は、「おもしろい」「こんな順番がある」など興味をもち、課題に取り組む姿が見られた。答えとしては、6通りが正解であるが、組み合わせに抜けがある児童がいたり、様々な考え方をする児童がいたりした。意見共有の場面では、様々

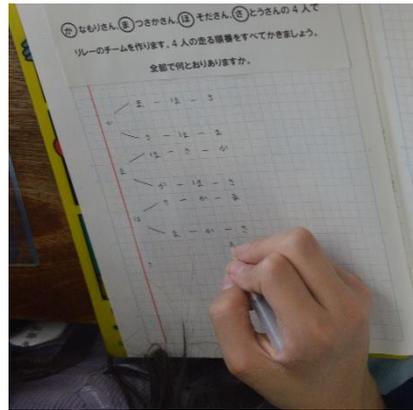


資料1 個別に学習する様子

な考えに触れることができ、答えにたどり着けなかった児童が解決できたり、自分の考え方よりわかりやすい方法に気付く児童が出てきたりした。

活動bでは、樹形図の使い方を全員で共有し、ほとんどの児童が樹形図を利用することができた。

活動cでは、「先生が4人になったらどうなる？」と発展課題を提示したところ、どの児童も進んで課題に取り組む様子が見られた。児童の答えは、「24通り」「12通り」「答えにたどり着かない」に分かれた。意見共有の場面では、正答である「24通り」の児童を中心に考えを共有する場面が見られた。樹形図を見せながら熱心に自分の考えを説明する児童、友達のを聞き、再考する児童など最後まで課題に向き合う生徒が多く見られた。



資料2 児童の解答例



資料3 意見共有の様子

ウ 実践の成果と課題

① 手だて1に対して

提示する課題に身近な人物を登場させる工夫を行うことで、多くの児童が興味をもって課題に取り組むことができた。また、課題解決方法を全員で共有した後、類似の発展課題を提示したことにより、多くの児童が発展課題にも進んで取り組むことができた。

② 手だて2に対して

グループによる意見共有の場を設定したことにより、わからなさを解決する児童がいたり、違う考えに気付く児童がいたりとして学びに深まりが見られた。しかし、樹形図の説明を丁寧に行ったため、共有の時間の確保が不十分であった。結果として、全ての児童が課題解決に至ったとは言えない状況であった。また、授業終了後に「僕、12通りって答えになったんだけどなんでだろう」と考えの共有を続ける児童がいたことから、考えを共有する時間の確保が課題として残った。

(2) 中学校における実践

学年：3年生

教科：国語科

単元：言葉とともに（俳句の可能性・俳句を味わう）

ア 具体的な手だてについて

・手だて1について

「戦争が廊下の奥に立ってゐた」という学校生活にも関わる廊下という語句を使った、渡辺白泉の句をどのように解釈するかという課題を導入部に提示し、様々な解釈をさせたり、実際に中学生が解釈した文章を紹介したりすることで俳句のおもしろさを感じ、進んで解釈文を作成すると考える。

・手だて2について

個人で考えた鑑賞文をお互いに読み合う時間を設けることで、自分とは違う解釈に気付き、俳句の特徴やおもしろさについて考えを深めるであろうと考える。

イ 研究授業の概要

① 本時の学習目標

- ・俳句の特徴に着目し、その句の情景や心情、良さを捉えることができる。
- ・進んで鑑賞文を書き、他者の解釈や意見を参考にしながら、俳句の特徴や面白さについて考えを深めようとする。

② 主な生徒の活動

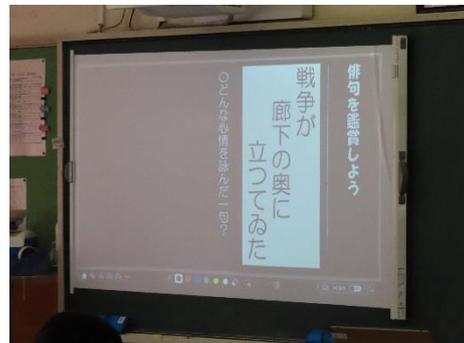
- 「戦争が廊下の奥に立ってゐた」という句について、どのように解釈するか考える。
- 教員が準備した9つの句から好きな句を選び、鑑賞文を作成する。
- I C T機器を活用し、お互いの鑑賞文を読み合い、良い点について評価カードを書き、相手に伝える。

③ 生徒の様子

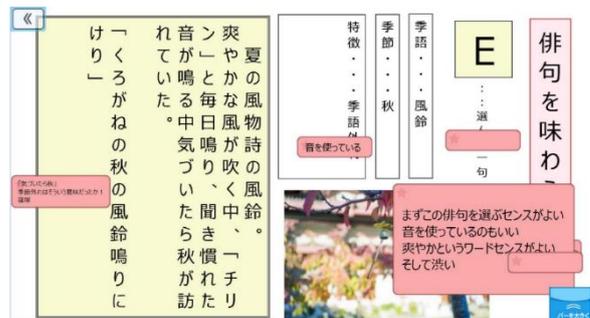
活動aでは、「戦争がもうそろそろやってくるという意味ではないか」「廊下は長いから戦争がずっと続くという意味だと思う」など初めて聞く句であったため興味をもって解釈しようとしていた。

活動bでは、活動aで俳句を解釈することにおもしろさを感じた生徒が多かったため、好きな句を進んで解釈したり、句にあう画像を探したりする姿が見られた。

活動cでは、同じ句を選んだ人の鑑賞文を読む中で、「おもしろい解釈をしている」「自分とほとんど同じ解釈だ」など様々な考え方について触れ、考えを深めている生徒の姿が見られた。



資料4 導入の課題



資料5 鑑賞文と評価カード

